

小学校への教科担任制導入についての論考

—昭和40年代の広島大学附属小学校の教育もふまえて—

白神 聖也

広島都市学園大学 子ども教育学部

要 旨

文部科学省は2022年度より小学校高学年の算数、理科、外国語、体育について教科担任制を導入していくよう求め、4年程度をかけて実施するよう方針を出した。義務教育9年間の円滑な接続と系統的な指導が主たる目的で、長所としては教科の授業の質が向上し学びの高度化が図れること、複数教師との接触を通じ児童の心の安定につながることで、教師の担当教科数が減り負担軽減につながることで挙げられる。一方、短所は担任教師が児童を把握しにくくなること、時間割変更の柔軟性に欠けること、専門教科を担う教員不足や小規模校での問題があり、実施には教員数の加配を含めた十分な予算措置や時間割作成などの課題がある。

1960年代の広島大学附属小学校の教科担任制についての卒業生の回想では、教科の学びの深さについては多くの支持があった。同時期の6年間担任持ち上がりでクラス替えなしの試みについては、客観的に考えるとリスクが大きいとする回答が多かった。

キーワード：小学校教育，教科担任制，教員養成，昭和40年代，広島大学附属小学校

I. はじめに

小学校の教科担任制は、学級担任以外の専科教員による音楽や図画工作で1960年代から各小学校で実施されていた。その後教科担任制の拡がりには定着しなかったが、文部科学省は2022年度から小学校高学年において、優先的に教科担任制を推進する教科を外国語、理科、算数とした。さらに、その3教科に加えて体育も教科担任制を実施することを決め、2022年度予算でそのための措置をした。これらの導入の目的は、現代的な課題に応える義務教育9年間の「令和の日本型学校教育」を目指し、いわゆる中1ギャップの解消や働き方改革を狙ったものである。

2020年度からの新学習指導要領で実際に教科外の「外国語活動」から「外国語（英語）」という教科に代わった小学校高学年の英語の授業では、近隣の中学校の英語の先生が乗り入れしたり、中学校・高等学校の英語の免許を持った学校外の方が教えたり、ALT（外国語指導助手）が補助したりすることにより実質的な教科担任制が行われた例があり、それらのことも4教科の教科担任制を進める契機となったものと思われる。文部科学省はまずは高学年の4教科を先行させたが、実施の進行や事例を集めながらやがては大規模・中規模校については、高学年、中学年を中心に他の教科の教科担任制も検討する方向と考えら

れる。

2022年度の広島県の公立小学校の実態では、文部科学省が重点化をうちだした4教科すべてを教科担任制にしている公立小学校はほぼなかった。広島市においては、以前から国立小学校の広島大学附属小学校や私立小学校であるなぎさ公園小学校などが中・高学年中心にほぼ完全な教科担任制を実施している。広島大学附属小学校は、すでに1960（昭和40）年代には教科担任制を取り入れていた。

本稿では、文献調査および1966（昭和41）年に児童として入学した筆者が受けた教育を自らの記憶および同期生の口述の聞き取りと質問紙の回答により記述し、これからの時代の教育に役立つように記録として残すこととする。

II. 小学校での教科担任制導入の背景と趣旨・目的

令和3年7月の「義務教育9年間を見通した指導体制の在り方等に関する検討会議」では、「義務教育9年間を見通した教科担任制の在り方について」として次のように報告されている。（文献（1））。

先進的かつ試験的なモデル校の取り組みの先行事例から次のようなことが確認されている（③④の括弧内は筆者注釈）。

- ① 授業の質の向上／学習内容の理解度・定着度の向上
- ② 小・中学校間の円滑な接続
- ③ 多面的な児童理解（複数の教員が児童に関わることのメリット）
- ④ 教員の負担軽減（授業の種類が減り教材研究・準備の時間が減少）

報告の中では、中央教育審議会での整理として、次の提言をしている。

<基本的な考え方>

- ・義務教育の目的・目標を踏まえ、育成を目指す資質・能力を確実に育むためには、各教科等の系統性を踏まえ、学年間・学校種間の接続を円滑なものとし、義務教育9年間を見通した教育課程を支える指導体制の構築が必要。
- ・GIGAスクール構想の加速化と併せて、きめ細かな指導により、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、才能を存分に伸ばすことができる個別最適な学びを実現していくために、新たな時代にふさわしい指導体制が必要。
- ・個別最適な学びを実現する観点からは、児童一人一人の学習内容の理解度・定着度の向上と学びの高度化を図る必要があり、教科担任制の導入によりICTの効果的な活用と相俟って授業の質の向上を図ることが重要。

<教科担任制導入の趣旨・目的>

- ・教材研究の深化等により、高度な学習を含め、教科指導の専門性を持った教師が多様な教材を活用してより熟練した指導を行うことが可能となり、授業の質が向上。児童の学習内容の理解度・定着度の向上と学びの高度化を図る。
- ・小中学校間の連携による小学校から中学校への円滑な接続（中1ギャップの解消等）を

図る。

- ・複数教師（学級担任・教科教員）により多面的な児童理解を通じた児童の心の安定に資する。
- ・教師の持ちコマ数の軽減や授業準備の効率化により、学校の教育活動の充実や教師の負担軽減に資する。

<対象学年>

- ・児童の発達段階を踏まえ、日常の事象や身近な事柄に基礎を置いて学習を進める小学校における学習指導の特長を生かしながら、中学校以上のより抽象的で高度な学習を見通し、系統的な指導による中学校への円滑な接続を図る必要がある。このような観点から、児童の心身が発達し一般的に抽象的な思考力が高まる段階であり、これに対応して各教科等の学習が高度化する小学校高学年から教科担任制を導入できるようにする。
- ・小学校高学年への教科担任制の導入は、専科教員が当該教科担当主任となり、低・中学年における学習指導と中学校以上の学習指導を見渡し、それぞれの良い面を生かすとともに円滑な接続を図るための校内研修の充実や、それによる教科指導の質の向上も期待される。

<対象教科>

まず、先行的・優先的に次の教科を高学年において実施の対象とする。

外国語 新たに小学校において導入された教科であり、指導体制の早急な充実が求められるとともに、中学校への学びの連続性を持たせながら、外国語によるコミュニケーション能力の基礎を培う系統的な指導を行う専門性が必要とされている。

理科 観察、実験などを中心とした問題解決の過程を通じて、児童自らが問題を科学的に解決したり、新たな問題を発見したりする活動を充実するとともに、ICTの活用やプログラミング的思考など新しい知見も活用しながら、理科の面白さや有用性を認識できるような指導、中学校での科学的リテラシーの育成を見据えた系統的な指導を行うことのできる専門性が必要とされている。

算数 統計教育の充実など社会や日常生活の事象に結び付ける活動の充実や、プログラミング的思考の重視など筋道を立てて考える力の育成の重要性、学年が上がるにつれて内容が抽象的になり躓きが生じやすい状況を踏まえ、数学的活動を充実させ数学のよさに気付かせるような指導、児童一人一人に応じた指導、中学校の内容も視野に入れ児童に算数・数学に興味を持たせながら系統的な指導を行うことのできる専門性が必要とされている。

以上3教科のほか、体育では現在の教員の年齢構成や定年延長、再雇用により体育を教えることが困難な教員が出ることが想定され、対象教科とすることが適当と考えられた。

体育 運動が苦手な児童をはじめ全ての児童に、できる喜びを味わわせていくことが求められるとともに、学年が上がるにつれて技能差や体力差が広がりやすく、個々の能力に適した指導・支援を安全・安心を確保しながら行う必要がある。生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育む上で、高学年児童の発達

の段階、能力や適性、興味や関心に応じて、運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決する学習を展開し、中学校の内容も見据えた系統的な指導を行うことができる専門性が必要とされている。

Ⅲ. 教科担任制と実施の実態と方法、その長所、短所

文部科学省は、無作為抽出の公立小学校・中学校1243校を対象に2022年12月12日から2023年の1月16日にかけて実施した調査の結果を2023年4月20日に発表した。

2022年度から本格的に導入された小学校高学年の教科担任制は、現行の学習指導要領が全面実施される前の2018年度と比べ、すべての教科で実施割合が拡大した。文部科学省が優先的に専科指導の対象とする4教科（外国語・算数・体育・理科）を見ると、いずれの教科も過去と比べると実施率は高くなったが、外国語は小学5年生で47.8%（18年度比29.5ポイント増）、6年生で48.9%（同29.6ポイント増）で、5年生、6年生ともに約30ポイント上昇した（2018年度の学習指導要領改訂に伴い「外国語活動」から「外国語」に移行しているため単純比較はできない）。理科も小学5年生で62.1%（同17.0ポイント増）、6年生で65.4%（同17.6ポイント増）と上昇した。

算数では、小学5年生で15.6%（同8.3ポイント増）、6年生で15.9%（同8.7ポイント増）と、それぞれ2割に満たなかったが、改善ポイントは倍増した。体育は小学5年生で22.4%（同12.5ポイント増）、6年生で21.7%（同11.2ポイント増）と、実施割合は相対的に低いもののそれぞれ10ポイント以上改善した（文献（4）一部引用）。

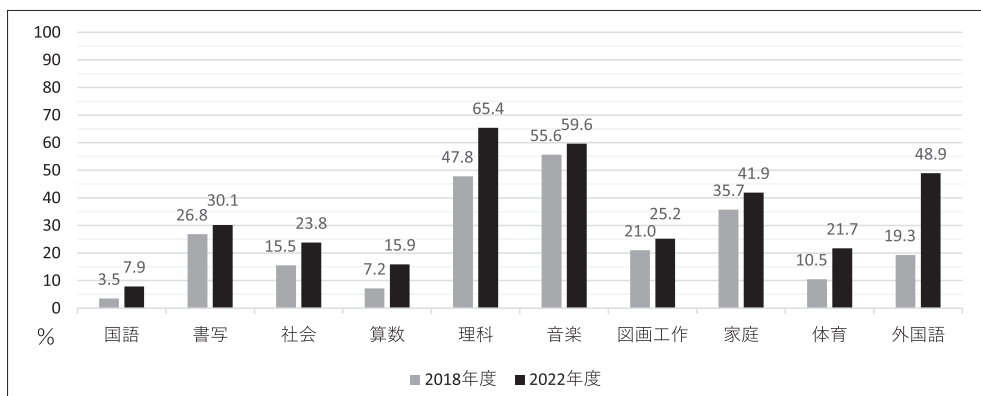


図1 小学校6年生の教科担任制の実施状況（2018年度と2022年度の比較）（文献（5）から作成）

表1 小学校等における教科等の担任制の実施状況（2022（令和4）年度）（文献（5））

学年	国語（書写以外）	書写	社会	算数	生活	理科	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語（活動）
1	1.6（%）	11.5	—	2.9	1.6	—	17.4	7.1	—	10.6	—
2	2.7（%）	20.8	—	4.0	3.3	—	27.2	13.0	—	13.3	—
3	2.5（%）	32.1	11.1	7.1	—	37.5	45.0	21.3	—	13.6	32.3
4	3.5（%）	33.6	14.5	8.7	—	49.4	50.7	23.8	—	17.6	34.8
5	8.1（%）	30.5	23.5	15.6	—	62.1	58.4	25.5	40.1	22.4	47.8
6	7.9（%）	30.1	23.8	15.9	—	65.4	59.6	25.2	41.9	21.7	48.9

（注）外国語は、5、6年は教科「外国語（英語）」、3、4年は「外国語活動」

過去の小学校における教科担任制の実施状況については次のようなデータが出ている。

表2 小学校等における教科等の実施状況（2018（平成30）年度）（文献（1））

学年	国語	書写	社会	算数	生活	理科	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語活動
1	1.1（%）	6.6	—	1.5	0.8	—	12.2	4.3	—	6.1	—
2	2.3（%）	13.5	—	2.5	1.6	—	20.7	9.8	—	7.4	—
3	2.4（%）	26.8	6.0	5.1	—	21.6	40.6	16.8	—	7.7	11.3
4	2.5（%）	29.7	7.4	5.9	—	32.3	47.8	20.4	—	8.4	12.0
5	3.4（%）	26.6	14.5	7.3	—	45.1	54.0	20.4	33.9	9.9	18.3
6	3.5（%）	26.8	15.5	7.2	—	47.8	55.6	21.0	35.7	10.5	19.3

表3 小学校における教科担任制の実施状況（2011（平成23）年度第6学年）（文献（10））

国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語活動
4.5（%）	9.5	4.1	34.2	48.9	17.2	27.4	8.1	5.5

平成23年度、平成30年度には、理科、音楽、図工、書写、家庭科などでは、すでに教科担任制を実施している小学校があることがわかるし、低学年のうちから音楽、書写などで専科の先生による指導にしている小学校もある。

教科担任制の実施方法は、中学校並みの完全教科担任制は難しいが、次のいくつかにより実施されている。

- ① 授業交換型・・・学年内や学校内での授業交換
- ② 追加型・・・専科教員（非常勤講師を含む）の加配
- ③ ティーム・ティーチング型・・・担任が専科教員と一緒に授業を行う
- ④ 連携型・・・近隣の中学校の教員などが教える

文部科学省は、担当教員の専門性を担保するために、該当する教科の中学校もしくは高等学校の教員免許を持っている方、免許法定認定講習を受講・活用した方、教科研究会な

どの活動実績を持っている方などを新たな教科担任の対象として挙げている。

また、特別免許状取得者で一定の勤務年数と講習履歴がある場合に他校種の特別免許状を取得できるようにすることや、令和7年度からは2年間で小学校二種免許状を取得できるようにすること、中学校教員養成課程で優先実施教科（外国語，理科，算数，体育）の免許取得ができる学部・学科において小学校二種免許状を出すカリキュラム編成を可能にすることなどの方策が考えられている。また、博士（理学など）を持つ方への特別免許状の付与や義務教育学校（9年制）の増設推進も挙げている。

文献のほか、現職教員への聞き取りから教科担任制のメリットとして、次のようなことがわかった。

- ・専門的な視点でのきめ細かい指導を受けることができる。
- ・授業の質や学習理解が向上する。
- ・同じ授業を複数回行うため改善・工夫により，教師も指導力が上がる。
- ・児童が担任以外の先生と接する機会が増え，多面的な指導・評価を受けられる。
- ・クラスごとの授業内容の差が軽減する。
- ・受け持つ教科数が減るので，授業準備とその時間が軽減される。
一方，教科担任制のデメリットとして次のことが挙げられる。
- ・担任の教師と児童が顔を合わせコミュニケーションを取る時間が減るため，クラスの児童の実態を把握しづらくなる。（標準時間数の少ない教科担任になると担任クラスの児童と顔を合わせるのが，朝と最後の短時間になる日も出てくる）
- ・年間や臨時の時間割編成が難しく，同一クラス内においても時間割の柔軟性が失われる。
- ・専門の教師の確保が難しい。
- ・異教科間の連携や児童の全体的な学習進度の把握が難しい。
- ・学年の多くのクラスで教科水準の公平性を保とうとすると，レベルを下げざるを得ない。
- ・学校内の教員集団では，教科担当により持ち時間数の偏りや実験・実習の負担により，教員間の不公平感が出てくる。

IV. 昭和40年代の広島大学附属小学校の教科担任制の実際

昭和41年度に入学した広島大学附属小学校の教育について，筆者の同期生へ質問紙調査と聞き取りをした。質問紙の内容は次の通りである。（質問紙の送付52通のうち回答数23）

質問1 ご自分が受けられた附属小学校での各教科担任制でのメリットやデメリットは何だと思われますか。

質問2 小学校での6年間連続クラス替えなし，担任持ち上がりについてお答えください。

- ① クラス替えなし，担任持ち上がりについて今どうと思われますか。
- ② 理由がありましたらご記入ください。

低学年からの音楽、造形（図画工作）、体育のほか、高学年では算数、社会、理科、家庭科も教科担任制であった。社会の教科担任は同学年で隣のクラスの担任をされていた滝口俊先生^{たき}だった。社会科では「ジュニア朝日年鑑」や白地図などを活用した。ときに教科書や副教材から離れ、調べ学習のようなことや東洋工業（現 マツダ）や同期生の親の職場での体験学習的なこともした。同期生の親の好意で田植えや稲刈り体験もさせていただいたことを挙げている同期生も多い。小学校としては長い日数の天草、熊本、阿蘇、別府方面への修学旅行自体が体験的な社会見学だった。

クラス担任の田辺^{かずいち}先生は、理科がご専門だったので、理科は6年間同じ先生に教えていただいたことになる（当時は1年生から理科があった）。理科では、手作りでんびんを製作し、出来ばえを相互評価した授業が印象に残っている。実験や観察、工作が多く、マス目ノートではなくルーズリーフの実験ノートがあったこと、探究の過程を重視したこと、夏休みの自由研究や冬の学習発表会があったことを回答として挙げている同期生が多かった。ただ、理科の実験が多すぎて嫌になったという同期生の回答もあった。

特に我々の学年担任のお二人の社会と理科では、班学習（話し合い・教え合い）や研究報告をレポートでまとめることが多かったとの回想があった。

算数の教科担任は、いつも笑顔で楽しそうに話され、私は内容面でも非常に興味を持った。教科書から離れた創造性豊かな授業に惹かれた。数量のほか実物を使った立体図形の学習など、思考力を試される内容も多かった。

体育の先生はいつも笑顔の優しい先生だった。球技（ポートボール、サッカー）や持久走（ペースランニング：現在のシャトルラン）など工夫が凝らされていた。女子（2クラス合同）は専科の女性の先生によるリズムという時間もあった。夏休みの水泳教室や水泳大会もあった。運動会の徒競走は足が速い順にグループ分けされ、今でいう能力別の徒競走だった（当時だから男女別である）。必修クラブはいろいろあったが、放課後のクラブはサッカー（男子）しかなかった。サッカーは対外試合もあった。また、ときに足の速い児童が集められて広島市小学校陸上記録会（リレー）に出ていた。

音楽ではオルガンではなくピアノの伴奏の合唱などが楽しかったと回想する回答もあった。造形（図画工作）も1年生から専科の先生に習い、楽しかった思い出ばかりである。

家庭科は高学年からで、料理や裁縫を習った。それらは今でも活かされていると思う。（我々の年代の男子は、中学校と高等学校での家庭科はなかった。）

国語は、担任の田辺先生が「たのしい川べ」（ケネス・グレーアム著 岩波書店）という単行本を長期間利用されて読むこむ授業をしたのが印象深かった。灘中学校の橋本武先生が実践された「銀の匙」の事例に似ている。書くことを重視した作文の授業も多かったし、詩を扱った授業も多かった。提出する毎日の個人日記には、最初にまず「克己」「協力」「探究」の三つの視点から、1日のふり返りを毎日一行ずつ書かないといけなかった。文集は行事があるごとに何回となく作らされた。各自あるいは編集委員の児童は蠟塗りの原紙をガリ板の上に置き、鉄筆で書いた。卒業の頃は、鉛筆で専用のFAX用紙に書いてから、

輪転機を使い校内印刷をしてもらっていた。卒業文集は製本され配布された。私のクラスでは、理科と国語は6年間同じ先生に習ったことになる。

教科担任制全体については、専門の先生に教えていただき、「深みがあった」「学びの拡がりを感じた」「専門だから先生自身が楽しそうで気迫があった」という回答が多く、各先生の指導力、実力もあって「よかった」とする回答ばかりだった。

4～6年生での能美島（江田島市沖美町岡大王）の学校専用の臨海宿泊施設を使用しての臨海学校、5年生の道後山での林間学校、安佐北区柳瀬でのキャンプ、佐伯区大野の海岸での潮干狩りや春と秋の遠足など、学校の方針とともに学年の方針として自然体験や社会体験など体験活動、校外学習が重視されていたと感じている同期生が多かった。

V. 広島大学附属小学校での6年間同一担任でクラス替えなしの試み

教育実験だったのかもしれないが、我々の昭和41年4月入学の67回生2クラスは1年生から6年生までクラス替えなし、クラス担任も変わらないという珍しい入学年度だった。名列票（出席番号）は男女別だが、五十音順ではなく生年月日順だった。男子22名、女子20名の42名が1クラスで学年2クラス84名である。現在の広島大学附属小学校は、基本的には2年間に一度クラス替えをしている。

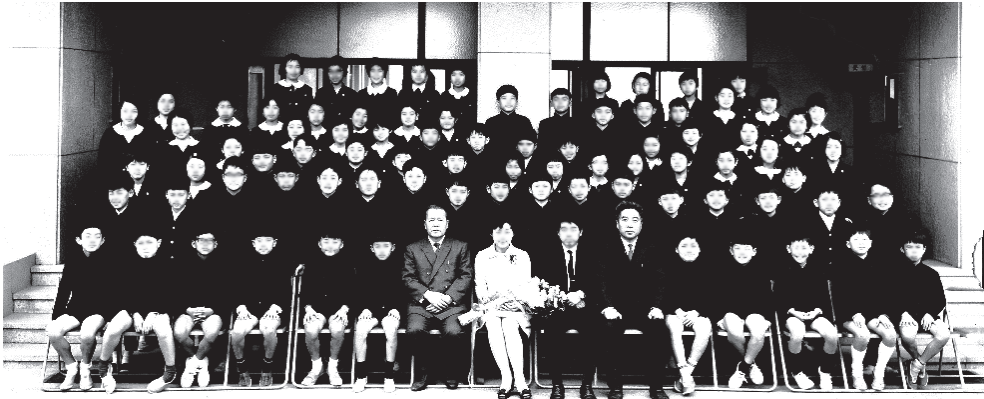
筆者が所属するクラス名は「2部」といい（一般的には2組）、担任の先生は大分県公立小学校教諭から広島大学附属小学校に引き抜かれた田辺一一先生であった。言われることはすべて筋が通って魂に染み入る。語勢が強く、とにかく厳しい。よく叱られたし怖かったが尊敬していた。ご専門は理科でかなり深い内容だった。我々の学年を担当された後は、広島大学附属小学校の副校長となられて定年退職された。

もう一つのクラス（1部という）の担任の先生は、涇口俊先生で、社会科がご専門であった。広島高等師範学校をご卒業されており、我々の卒業後しばらくして広島大学附属小学校副校長をお務めの後は、山口女子大学（その後、鳴門教育大学）に転出された。涇口先生を敬愛し今でも尊敬していると回想する同期生も多かった。

この「6年間クラス替えなし・クラス担任教諭も同じ」の長所は、クラスの仲間の仲が深くなることである。一方、6年間で合わない級友が出てくるのは必然であり、いじめもあったと同期生は回想しているが、不登校になった級友はいなかった。結果的に、理科がご専門の田辺先生が担任した2部というクラスからは理科系に進んだ者が多く、社会がご専門の涇口先生が担任した1部というクラスからは文科系に進んだ者が多かったのではないかと、指摘する回答もあった。そうだとすると、6年間同一担任は先生の影響が大きい証左であろう。

私が所属したクラス（2部）は、転校した級友もおらず入学した42名が全員卒業した。担任の先生と相性いい筆者のような児童はよかったが、そうではない場合もあり自分は相性が悪かったとする回答もあった。肯定的評価が多い中、勉強が嫌いになったという意見や、当時だから仕方ないが精神修養的で精神論が多すぎたという回答もあった。

また、いま客観的に考えるとリスクが大きすぎるという意見が多かった。現代の家庭社会状況では無理だろうという意見もあった。多様な子どもがいるわけだから、6年間連続はいろいろな点で危険であり、クラス替えをして違う先生が担任になり、違うメンバーで違う友達を作りクラスを形成することは必要だと思う。



67回生6年生2クラス 中の2人の先生の送別記念でその左が田辺先生、右が冨口先生
(昭和46年4月8日撮影 田辺先生の向かって左隣が筆者)

VI. おわりに

教科担任制のメリットは、特に小中接続において専門性の高い「深い学び」を受けることができる可能性があることと、学齢進行に伴う系統性が保たれやすいことにあるように思う。子どもにとっても、何人かの先生に教われれば自分に合う先生を見つけて質問・相談に行くことができる。また、教員の教材研究の種類も減るので、時間的なゆとりができ、働き方改革の一助になるのかもしれない。理科や家庭科、体育は、特に準備や片付けに時間を取られるので、それらの教科担任になると逆に余裕がなくなることが指摘されている(中学校や高等学校では、理科と家庭科は教員とは別に実習助手をおく学校が多い)。また、上記以外の教科についても、教科専門の方が教えている小学校の出身者は、中学校での教科内容の飲み込みが早いとする現役の中学校の先生からの証言が得られた。

実際に専門性がある教科の教員の組み合わせがすべての小学校で可能かといえば、それは現状ではむずかしい。当面は教員の交換授業でのやりくりになるし、教員の空きコマが増えるとしているが、物理的に考えて予算措置での教員数の加配がない学校では教師の空き時間は増えない。教員数の加配措置、人件費などの予算のさらなる増加が必要である。また、定年後の経験者などの方の活用を考えるべきである。教員同士の連携や、児童の情報交換の場も不可欠である。低学年においては小1プロブレムなどの問題から、学級集団づくりが主となるので、教科担任制(専科)は一部の教科にならざるを得ない。

当面の現実的な最適解は、中学年、高学年でのゆるやかな教科担任制であろう。すべて

の教科を小学校で教科担任制にすることは時間割を組む上でも物理的に不可能であり、3～4人の先生で1クラスの教科を受け持つくらいが現実的である。一人の担任の教員が休んだらクラスの全授業がなくなるというリスクも回避できる。

小学校教員養成での課題は、卒業論文の研究室配属だけではなく、大学4年間で何らかの専門性を持たせて、得意な教科を複数持たせて卒業させることではないかと考える。これは、小学校教員養成課程で中学校教諭の免許をいわゆる副免許として持てる大学では実現可能性があるが、今でも実際に理科系教科（理科、数学）の副免許を取得する学生は少ないのが実態である。また、答申されている特別免許状の所有者の利用については、現状は高等学校の英語と看護科の人員が多く、小学校教科担任制の優先実施教科のうち数学・算数、理科は少ない。現在の中学校教諭一種免許状申請者数についても、理科と数学、技術は少ない。中学校教員養成学科内の他の教科コースでも優先実施教科の小学校二種免許状が取れるようになるとはいえ、このあたりにも課題がある。高等学校まで文科系だった学生が多い小学校教員養成課程では、新卒教員が高学年で教えるのが難しく感じ、また文部科学省が教科指導の高度化をねらっている理科、算数、英語の力を育成するための教員養成カリキュラム改革の必要性がある。各教科の専門性をもった先生が、各学校に均等に分配されない限りは、年度により教員が専門を変えながら教科担任制を実施することになる。高学年の英語については、アクセントの刷り込みなどの問題もあり当面は中学校、高等学校の英語の教員免許を持っている方などが講師やTTでのゲストティチャー、ALTで教えるのが適切であろう。小学校英語と中学校英語の接続のミスは多く指摘されている。

2021年12月22日に、末松信介文部科学大臣は財務省との折衝で教科担任制の実施に向け、2022年度の教員について全国で950人の増員（2,000人分概算要求）を発表し、4年間で3,800人（8,800人分概算要求）程度の定数改善を見込んでいるが、実際にはそれ以上の教員数の加配などの予算措置が必要不可欠である。また、教員志望者減少の根本的な解消は別のところに問題があるのであって、教師を魅力ある職業にするために待遇面も含めた抜本的な働き方改革をすることの方が先である。わが国において小学校という校種では、基礎・基本的な学力の定着もさることながら何より担任が児童と十分に関わることによる人間的な成長に重きに置いてきた歴史背景や学校文化もあり、今回の中央教育審議会の答申は、児童の発達や教師の働き方改革よりも国策としての9年間の義務教育での理科、算数、英語の学力伸長に重きが置かれていることが透けて見える。

もちろん、一部の県、市の教育委員会管轄地区では4月当初からすでに学級数に見合う教員定数が不足していたり、年度途中も休職や産休・育休、また児童転入による学級増設による代替教員を臨時的任用教員（常勤・非常勤講師）候補者名簿から補充するのが困難な状況があつて、教頭が代わりに授業や担任をしたり、一般の教員も教科担任制とは逆に万能型が求められている現実がある。つまり、理念が先で学校経営での運用の視点が抜けていたのである。

教員のなり手不足の問題に対しては、2023年5月10日に自由民主党の「令和の教育人材

確保に関する実現プラン」特命委員会は、教職調整額のアップなど新たな政策提言をした。また、文部科学大臣は2023年5月19日に衆議院文部科学委員会で、続いて5月22日には中央教育審議会へ教員の処遇改善や働き方改革、質の高い教師の確保のための環境整備について2024年度の法改正に向け検討するよう諮問し、その中には小学校高学年の教科担任制の拡充も含まれている。2023年6月7日には、政府は経済財政諮問会議に「骨太方針」を出し、その中に教員の処遇に関しても改善する方向で抜本的に見直すと明記されているので、今後の進展が待たれる。

主要引用・参考文献

- (1) 文部科学省 義務教育9年間を見通した指導体制の在り方等に関する検討会議 (2021), 「義務教育9年間を見通した教科担任制の在り方について (報告) (関係資料)」, https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/159/mext_00904.html, 2023-4-23最終アクセス。
- (2) 中央教育審議会 (2022), 「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成」(答申) 令和4年12月19日, https://www.mext.go.jp/content/20221219-mxt_kyoikujinzai01-1412985_00004-1.pdf, 2023-5-5最終アクセス。
- (3) 中国新聞・共同 (2023), 「教科担任 小6理科65% 22年度文科省調査 専門的指導へ推進」, 16版 23, 2023年4月21日付。
- (4) 教育新聞 (2023), 「小学校の教科担任制が拡大 小5理科62.1%, 外国語47.8%」, https://www.kyobun.co.jp/news/20230420_06/, 2023-5-6最終アクセス。
- (5) 文部科学省 義務教育9年間を見通した指導体制の在り方等に関する検討会議 (2023), 「令和4年度公立小・中学校等における教育課程の編成・実施状況調査 調査結果」, https://www.mext.go.jp/content/20230419mxt_kyoiku02_000029047_02.pdf, 2023-5-6最終アクセス。
- (6) Teach For JAPAN (2022), 「2022年度導入! 小学校高学年における教科担任制―背景・効果・課題とは?」, <https://teachforjapan.org/journal/12972/>, 2023-4-23最終アクセス。
- (7) ReSeda (2021), 「小学校高学年「教科担任制」導入へ、教員950人増員」, <https://reseed.resemom.jp/article/2021/12/24/3036.html#:~:text=%E6%94%BF%E5%BA%9C%E3%81%AF2021%E5%B9%B412,%E6%94%B9%E5%96%84%E3%82%92%E8%A6%8B%E8%BE%BC%E3%82%93%E3%81%A7%E3%81%84%E3%82%8B%E3%80%82>, 2023-4-23最終アクセス。
- (8) メガホン (2022), 「教職員アンケート結果 小学校高学年の教科担任制について」, <https://megaphone.school-voice-pj.org/2022/01/post-471/>, 2023-4-23最終アクセス。
- (9) 梶田英之・道法亜梨沙 (2022), 「小学校における教科担任制導入に向けての今後―実践校における意識調査から―」, 『比治山大学・比治山大学短期大学部教職課程研究』, 第8巻, 24-33。
- (10) 吉村日出東 (2021), 「小学校教科担任制導入と指導上の課題について」, 『帝京大学紀要』, Vol.17, 43-51。
- (11) 奥田修史 (2022), 「小学校教科担任制導入提言の特徴と課題: 今日の政策動向とこれまでの議論との関連」, 『学校経営研究』, 大塚学校経営研究会, 47巻, 1-8。
- (12) 天笠 茂 (2022), 「現代における小学校教科担任制の意義と課題―研究者の立場から―」, 『学校経営研究』, 大塚学校経営研究会, 47巻, 9-21。
- (13) 天笠 茂 (2022), 「教育イノベーションとしての小学校教科担任制: 昭和から令和への引き継ぎ」, 『週刊教育資料』, 日本教育新聞社, No.1673, 52。
- (14) 末富 芳 (2023), 「教員不足をなくそう 自民党特命委員会提言のポイントは学校に人を増やす」,

働き方改革もだった」, <https://news.yahoo.co.jp/byline/suetomikaori/20230512-00349186>, 2023-5-13最終アクセス.

(15) 教育新聞 (2023), 「学校のマンパワー拡充「義務教育のコストが変わる」萩生田氏」, https://www.kyobun.co.jp/news/20230511_06/, 2023-5-13最終アクセス.

(16) 教育新聞 (2023), 「中教審は「来年の春ごろに方向性」永岡文科相 教員の働き方改革で」, https://www.kyobun.co.jp/news/20230519_05/, 2023-5-22最終アクセス.

(17) 中国新聞 (2023), 「教員確保 文科相が諮問」, 16版 3面, 2023年5月23日付.

(18) 中国新聞 (2023), 「教員給与 残業分上乘せ 政府, きょう骨太方針案」, 17版 1面, 2023年6月7日付.

謝辞：筑波大学附属小学校（元 広島大学附属小学校）の志田正訓先生，広島大学附属小学校の赤松雄介先生，眞鍋雄大先生，広島市立瀬野小学校（前 広島大学附属東雲小学校）の土井裕介先生に感謝いたします。また，郵送や電子メールで質問に対し回答していただいた広島大学附属小学校の同期生のみなさん，ありがとうございました。忘れていたことを思い出しました。